

Part 17, Vols 68–70: Cultural History, 8th Series

全3巻セット定価(本体63,000円+税)・ISBN 978-4-86340-263-8・菊判

イギリス食文化:タバコ

イギリスのタバコの歴史についての5つの著作。タバコという植物、製造と取引、使い方(パイプ、葉巻、紙巻、嗅ぎタバコ)を含む、喫煙の社会・文化史を扱う内容。

16世紀のヨーロッパへの伝来以降、19世紀、20世紀の喫煙習慣が広範に普及するに至るまでタバコは常に議論的であり続け、喫煙に対する態度は、「神聖な草」に対する賛辞を表現するものから、下品な行為と評して反社会的との烙印を押すようなものまで両極端でした。また文学や大衆文化の中で、タバコはあらゆることの象徴にもなりました。

タバコの本質はオスカー・ワイルドの皮肉交じりの表現によってよく表現されているかも知れません。いわく、“A cigarette is the perfect type of a perfect pleasure. It is exquisite, and it leaves one unsatisfied. What more can one want?”

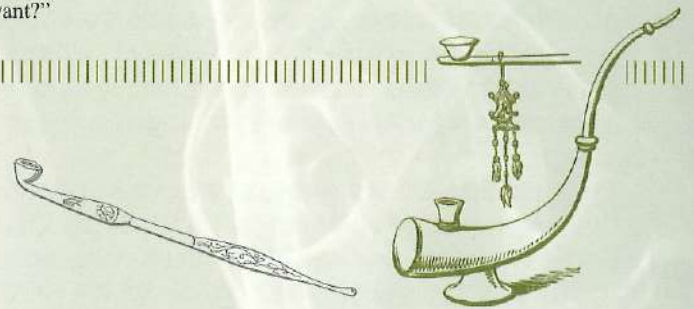
Contents

Volume 68: Andrew Steinmetz *Tobacco: Its History, Cultivation, Manufacture, and Adulterations* (1857) & F. W. Fairholt *Tobacco: Its History and Associations* (1859)

ISBN 978-4-86340-264-5・536 pp., ill.・22,000円+税

ヴィクトリア朝中期の喫煙に関する古典的著作2冊を合本。タバコという植物とその栽培、心身への効果、さらに「道徳的な影響」までもを紹介する内容。*Tobacco: Its History, Cultivation, Manufacture, and Adulterations*の著者スタインメッツは多作な作家で、決闘や賭博、イエズス会についての著作で知られ、刊行物として初期の日本関係書も手掛けた。自身を「喫煙常習者」と説明しており、1965年の人名録によると「過度の喫煙がたまって失明した」とか。*Tobacco: Its History and Associations*の著者フェアホルトは有名な古物研究家で版画師。前書きの中で、ロンドンのセントポール大聖堂近くにあった父のタバコ倉庫の中で遊んでいたことを思い起こしている。彼自身は喫煙者ではなかったが、喫煙が悪であったとしても、そのようなささやかな娯楽を反道徳的と公然と非難するには反対だった。

[Steinmetz] Historical・Cultivation・Manufacture・The Influence of Tobacco on the Human System・Medicinal Action of Tobacco・Moral Influence・Advice to Smokers
[Fairholt] The Tobacco Plant・Tobacco in America・Tobacco in Europe, and Its Literary Associations・Tobacco-Pipes, Cigars, and the Smokers Paraphernalia・Snuff and Snuff-Boxes・The Culture, Manufacture, and Consumption of Tobacco



Volume 69: G. L. Apperson *The Social History of Smoking* (1914) & Wilfred Partington, ed. *Smoke Rings and Roundelays: Blendings from Prose and Verse since Raleigh's Time* (1924)

ISBN 978-4-86340-265-2・592 pp., ill.・23,000円+税

前世紀転換期の二人の文筆家の著作。*The Social History of Smoking*の著者アパーソンは雑誌 *Antiquary* の編集者を長く務めた人物で、社会や文学のジャンルのライターであった。イングランドの喫煙の歴史をより深く探求しており、「流行の変動」や「喫煙に対する社会の態度の変化」をたどった内容。*Smoke Rings and Roundelays* 著者パーティントン *Bookman's Journal and Print Collector* の編集者で多くの文学作品を書いた人物。喫煙の楽しみをうたったラレー以降の散文や詩を抜き出し便利なアンソロジーに仕上げたのが本書。多くの作家と“Lady Nicotine”の間に存在する親密な結びつきを祝福するような内容。

[Apperson] The First Pipes of Tobacco Smoked in England・Tobacco Triumphant: Smoking Fashionable and Universal; Sellers of Tobacco; Professors of the Art of Smoking・Cavalier and Roundhead Smokers・The Restauration Era・Under King William III and Queen Anne・Smoking Unfashionable: Georgian Days・Signs of Revival・Victorian Days・Twentieth Century・Smoking by Women・Smoking in Church・Tobaccoists' Signs・Index

[Partington] In the Beginning・Tobacco・Pipe Songs and Fancies・Woman and the Weed・Some Great Pipemen and Others・Cigars・Cigarettes・Snuff・Matters of Choice・Virtues of the Leaf・Parodies and Imitations・On the Varieties of Pipes・Tobacco and Books・Dinner – and After・Smoke Pictures・The Philosophy of Smoke・Recipes and Hints・Accessories to the Pleasure・First and Last・A Bibliographical Guide to the Authors and Their Works

Volumes 70: Count Corti *A History of Smoking* (1931)

ISBN 978-4-86340-266-9・362 pp., ill.・18,000円+税

著者コルティはオーストリア=ハンガリー帝国の貴族で武官であった人物。後に、ヨーロッパの王族の伝記を専門に執筆する歴史家となる。1930年にドイツで初版が刊行された本書は、総合的な喫煙文化の歴史として最良で、イギリスの喫煙史にたっぷりの紙幅を割いていると共に、それを様々な前後関係の中に位置づけている。

Religious Origins: The Mayas and the Aztecs・Columbus Discovers America・From the Old World to the New・The Rise of Smoking in England・The Spread of Smoking Throughout Central Europe and the Beginning of Opposition・Progress of Smoking in Southern and Eastern Europe, and in the Orient・The Governments' Surrender to Tobacco・Smoking in the Eighteenth Century: Pipe Versus Snuff-Box・The Napoleonic Period and the Age of Cigars・The Second Half of the Nineteenth Century: The Coming of the Cigarette: The Final Triumph of Smoking・Chronology・Bibliography・Index



喫煙だって文化である

小林 章夫 ● 上智大学名誉教授・帝京大学教授

一体いつのことだろうか。タバコの害が声高く叫ばれ、喫煙者が罪人のように見なされるようになったのは、公共の場所での禁煙が当たり前となり、「受動喫煙」なる言葉が生まれて、家の中での喫煙まで非難され、庭やベランダでこそそそと煙を吐くようになったのは、確か30年、いや20年ほど前にはこれほど喫煙者が嫌われることはなかったような気がする。それが証拠に、20世紀後半に制作されたテレビ番組では随分多くの人がうまそうにタバコを吸っていた。イギリスのパブではみんなが煙をくゆらせ、外で歩きタバコをする人が普通に見られた。ただし、徐々にタバコの値段が高くなり、イギリスではひと箱1000円を超えるのが当たり前になったから、タバコをせびられることが増えたと、ぎりぎりまで吸わずに捨てようとする、もったいないと非難されることもあった。それどころか、捨てられたタバコを拾い、ドロップの缶にせっせとため込む人もいた。

タバコ好きの筆者から見ると、実にかっこよく吸う人はあこがれの的だったし、葉巻やパイプをくゆらせる紳士は、見ているだけでも文化、教養の香りがした(実はそんなものとは無縁の人間も多いた)ものだ。あるいは18世紀にはやっとなされる嗅ぎタバコ、この流行に合わせて生み出された「嗅ぎタバコ入れ」(snuff-box)のお洒落なこと、これぞまさしく文化の香りを伝えるものではなかったか。江戸時代の風俗画に出てくるタバコ入れにも勝る出来栄である。ただし、あの大リーグでよく見かけた「嘔みタバコ」は願ひ下げである。だって品のないことおびたらしいと思うからだ。

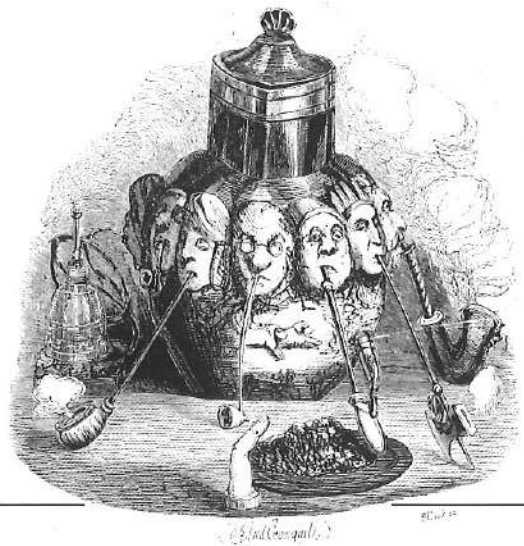
さて、そこで現在は逆風にさらされて喫煙もままならぬタバコの歴史である。ヨーロッパ大陸にこれがもたらされたのは500年ほど前、大航海時代のことだが、それ以来、タバコには豊かな歴史があり、これを好んだ人の数も凄まじい。そしてタバコを手にしてすぐれた作品を世に送った文学者、芸術家、あるいはタバコをくゆらせながら戦略を練った将軍、政治家の数もおびたしい。もちろんタバコを取り上げた歌や詩も多くある。酒と並んで、タバコは創造力の源泉であったし、酒と違って理性を刺激するから、立派な論文も書ける(はず?)。いや、文章にも味わいが含まれることになるだろう。

というわけで、今回復刻されたのは5つの貴重な文献はありがたいことこの上ない。19世紀半ばから20世紀初頭に出版されたものだから、タバコにとって良き時代の産物である。タバコの歴史、タバコ栽培の事情、喫煙の歴史などを、興味深いエピソードをたっぷり交えて語っているから、現今のような時代に生きるタバコ好きには目を離すことのできない文献ばかりである。身体に与える影響にも筆が及んだ文献があるから、タバコの害を声高に言い立てる人にも興味を持てるかもしれな

い。ただしあらかじめ断っておくと、タバコのもたらす優れた効果に焦点が当てられているから、くれぐれも「禁煙の勧め」に役立つなどと思わないこと。酒のように禁煙同盟が力を発揮して、禁煙同盟などという組織が生まれることは願ひ下げである。どうかそのようなことはご勘弁いただきたい。

その意味で、今回の復刻に収められた *A History of Smoking* (1931) は Count Corti なる人物(オーストリア=ハンガリー帝国の貴族で、やがて歴史作品を数多く書いた人物)が書いたものを Paul England という男が訳したもので、喫煙の歴史をたどって大いに読ませるものである。実は筆者もこの本を手に入れて愛蔵してきただけに、これが復刻されるのは喜ばしい限りである。よくまとまった歴史書だし、図版もたっぷり、何よりも参考文献が詳しく明示されているし、索引がついているのも大いに便利である。しかもタバコの歴史を詳細に跡づけているし、年表までついているのは嬉しい限り。至れり尽くせりの書物である。すでに記したように出版は1931年(実は初版は1930年にドイツで出版された)だから、禁酒法がアメリカで猛威を振るっていた時代である。「禁煙法」などというものがイギリスで生まれなくてよかった。

いや、それ以上にこの本がうれしいのは、「献辞」にこう書いてあることである。「わが愛する妻へ」。いやあ、隔世の感があるね。さぞかし夫婦仲がよかったのだろう。あるいは、日ごろ、文字通り煙たがられていた夫がここでおべっかを使ったのか、それとも皮肉で反撃したのか(そんな恐ろしいことはあるまい)。だがいずれにしても、いまはこんな本を書いて妻に捧げるのは至難の業、危険極まりないことではないか。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】